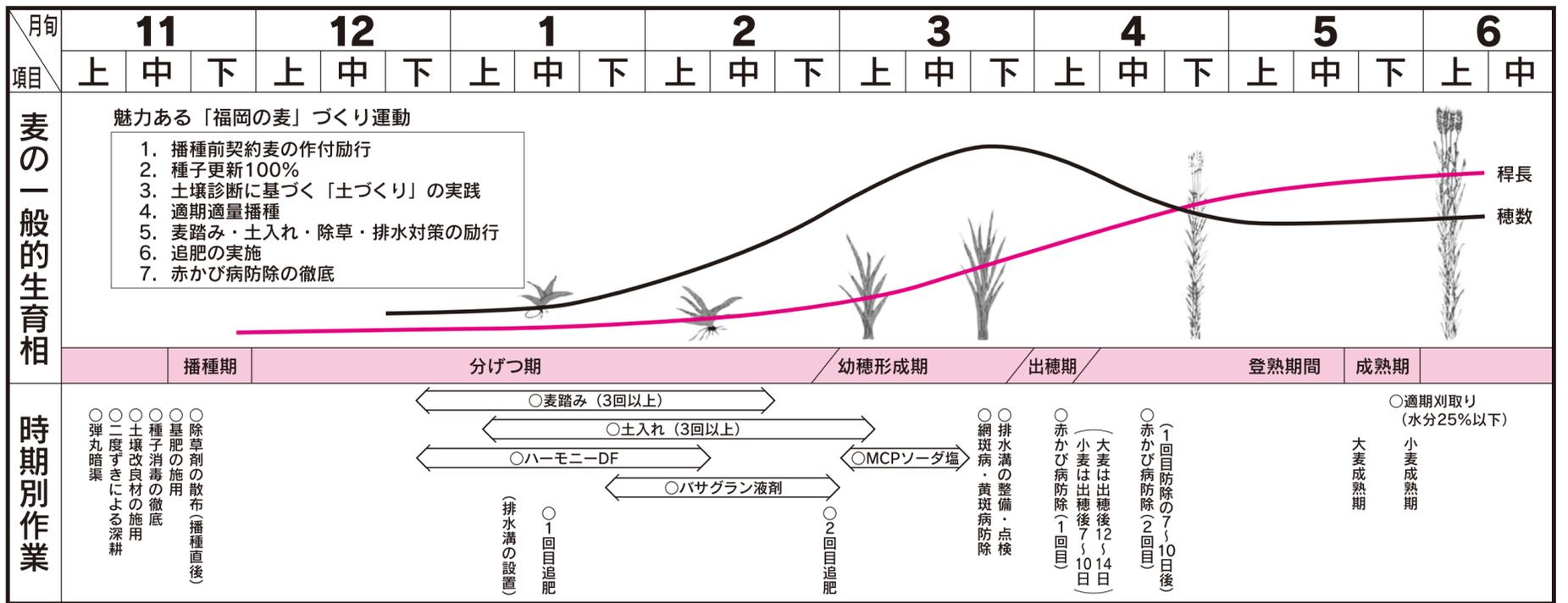


令和8年産 麦類栽培ごよみ

三井地区農業振興協議会
JAみい
久留米普及指導センター



1. 土づくり

- 土づくりを実施して麦の収量・品質向上を目指しましょう。
- (1) 適正なpH(6以上)を維持するために、ミネラルG又は珪鉄を10a当り200kg施用する。また土壌の酸性が強い場合は、10a当り炭酸苦土石灰200kgを目安として施用する。
- (2) 稲わらすき込み及び大地めくみちゃん(1t/10a当り)の施用
- (3) 深耕(作土深15cm目標)

2. 排水対策

湿害を受けやすいので停滞水を生じないように①有材暗渠、②弾丸暗渠(基準2m間隔)、③畦立て及び排水溝の整備により排水対策を徹底する。

3. 種子更新と適期・適量播種

異品種混入や種子伝染性病害を防ぐため、毎年種子は100%更新する。

(1) 播種適期

品 種	品 種	播種適期	播種晩限
小 麦	シロガネコムギ	11/15~20	12月15日
	チクゴイズミ	11/20~25	
大 麦	はるさやか	11/25~12/5	12月20日
	はるか二条		

※大豆の後作は、大麦の作付けを行いましょ。

(2) 播種量

種 類	播 種 量 (10a当り)	1升当りの重量
小 麦	7kg (5.5升)	1.3kg
大 麦	6kg (5升)	1.2kg

※厚播は倒伏しやすく、品質が低下しやすい。大豆後作は播種量を減らす。

※播種適期より遅播きする場合は播種量を2割増やす。

(3) 播種深度

適正深度 2~3cm(大豆の後作は、深播きになりやすいので、注意する。)

4. 種子消毒

(種子10kg当り)

品 種	薬剤名及び使用料	対象病害虫
シロガネコムギ	ベンレートTコート 50g	黒穂病類 ヤギシロトビムシ
チクゴイズミ	(劇)アトマイヤー水和剤 15g	
はるさやか	トリフミン水和剤 50g 種子粉衣	黒穂病類 網斑病
はるか二条		

※小麦のヤギシロトビムシ多発生場の対策(種子10kg当り)

クルーザーFS30 60mlを塗抹処理し乾燥後、ベンレートTコート 50gを種子粉衣する。

5. 施肥基準

【追肥一発体系】

種類	種類	基肥	1回目(1月中下旬頃)
小 麦	シロガネコムギ	ちくごのめぐみ 444	35kg
	チクゴイズミ		30kg
大 麦	はるさやか	(14-14-14)	15kg
	はるか二条		20kg

※大豆後作の基肥量は、基準より約5割減らし、追肥は生育に応じて加減する。

【分施肥体系】

種類	種類	基肥	追肥	
			1回目(1月中下旬頃)	2回目(2月下旬頃)
小 麦	シロガネコムギ	ちくごのめぐみ 444	40kg	30kg
	チクゴイズミ			25kg
大 麦	はるさやか	(14-14-14)	40kg	15kg
	はるか二条			20kg

※大豆後作の基肥量は、基準より約5割減らし、追肥は生育に応じて加減する。

●品質基準が設定され、①タンパク質含有率②灰分③フォーリングナンバー④容積重の基準を下回ると生産・品質に基づく支払い単価が変わります。そのため栽培管理として追肥の徹底と基本技術の励行が重要です。

6. 除草剤使用基準

(1) 初期除草剤

除草剤名	処理方法(10a当り)			対象雑草
	使用量	希釈水量	散布時期	
リベレーターフロアブル	60ml~80ml	100ℓ	播種後~麦3葉期	初期に発生する一年生雑草
ムギレンジャー乳剤	300ml~600ml		播種後出芽前	
リベレーターG	4~5kg	-	播種後~麦2葉期	

※リベレーターフロアブル及びリベレーターGの使用により麦の葉身に白化や黄化等が見られる場合がありますが、その後出てくる葉には認められず回復します。

(2) 中期除草剤

除草剤名	処理方法(10a当り)			対象雑草
	使用量	希釈水量	散布時期	
ハーモニーDF	5~10g	100ℓ	播種後~節間伸長前	一年生広葉雑草及びスズメノテッポウ5葉期まで
バサグラン液剤	100ml~200ml	70~100ℓ	生育期(但し、小麦は収穫45日前まで、大麦は収穫90日前まで)	一年生広葉雑草・キンポウゲ類及びアメリカカワウロに効果が高い
MCPソーダ塩	200g~300g	70~100ℓ	幼穂形成期(3月上中旬)但し、収穫45日前まで	一年生及び多年草広葉雑草・カラスノエンドウに効果が高い

7. 網斑病・黄斑病防除基準

対象病害	薬剤名・使用量(10a当り)	使用回数	使用時期
黄斑病(小麦)	チルト乳剤25	1000倍(水100ℓに100ml)	3回以内
網斑病(大麦)			1回

※網斑病・黄斑病が多発した場合、減収します。

8. 赤かび病防除基準

散布時期	薬剤名・使用量(10a当り)	使用回数	使用時期
小麦(開花期) (出穂後7~10日)	トップジンM粉剤DL	4kg	出穂期以降2回以内
	ミラビスフロアブル	2000倍(水100ℓに50ml)	2回以内
大麦(蒴殻抽出期) (出穂後12~14日)	ワークアップ粉剤DL	3kg	3回以内
	ミラビスフロアブル	2000倍(水100ℓに50ml)	2回以内

※はるか二条は赤かびに弱いので、2回防除を徹底する。2回目防除は1回目防除と同じ薬剤で7~10日後に行う。

9. 収 穫

穀粒水分が大麦・小麦とも25%以下、大麦では穂首が80%程度曲がった時に収穫する。

品種特性表

品種名	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 ㎡当り	特性および栽培上の留意点
シロガネコムギ	4/5	5/26	79	8.1	522	〇穂発芽しやすいので適期収穫に努める。
チクゴイズミ	4/6	5/29	88	8.5	537	〇倒伏防止のため、多肥栽培は避ける。
はるさやか	4/1	5/13	87	6.2	630	〇網斑病の防除を徹底する。
はるか二条	4/3	5/15	79	6.5	654	〇赤かび病に弱いので、2回防除を徹底する。

※栽培履歴(管理日誌)はご記入の上、提出してください。

●農薬の安全・適正使用、飛散防止の徹底!

※農薬の登録内容は随時変更されます。農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認して下さい。

※農薬の散布時は、風向きに注意し、農薬が周辺作物へ飛散しないように注意しましょう。

(令和7年8月作成)